

各 位

会社名 荒川化学工業株式会社
本社所在地 大阪市中央区平野町1丁目3番7号
代表者名 取締役社長 末村 長弘
(コード番号 4968 東証第一部、大証第一部)
問合せ先 取締役経営企画室長 中尾 光良
TEL(06)6209-8500(代表)

中期5ヵ年経営計画について

荒川化学工業は、現在当社が置かれた厳しい環境と位置を正しく認識し、将来に向けた企業価値の最大化を目指し、方向性、指針、価値基準を明確なものとする中期5ヵ年経営計画を策定しましたのでお知らせいたします。

1. 計画の名称

中期5ヵ年経営計画

2. 計画期間

平成15年4月～平成20年3月(5ヵ年)

3. 経営方針

将来に向けた継続的な発展と企業価値の向上を目指し、中期5ヵ年経営計画で取り組むべき基本方針として次の4つの項目を掲げる。これに沿って事業部門ごとに事業の方向性と課題を明確にし、全社一丸となって課題の解決に取り組み、顧客から信頼され、且つ社員一人ひとりが会社の仕事や自分の将来に夢を持ち、それを果たせる企業としての変革を目指す。

1) 既存事業の再構築

既存事業においては、徹底した低コスト体質への変革と継続的な発展を可能とするための安定した収益を確保できるよう責任と権限が明確となる組織へ再編する。これにより、事業部門ごとの事業の見直しや徹底したコストダウンを実施し、収益性の改善を推進する。

2) 新規事業の創生

新規事業においては、将来に向けた次なる柱を確立するための責任と権限が明確となる組織へ再編し、これまで育ててきた新規分野の更なる発展と将来の新たな展開を可能とする新規事業の創生を推進する。

3) 国際展開

グローバルな展開を可能とするための責任と権限が明確となる組織へ再編し、これまで進めてきた国際展開をさらに発展させていくため、荒川グループとしてアジア地域、特に伸長が著しい中国における市場開拓を推進し、経営基盤の確立を目指す。

4) 新たな経営の仕組みの構築

顧客ニーズの変化に俊敏な対応を可能とするため、営業と研究部門を機能別組織から事業別組織へ再編し、機能別最適から事業別最適の経営を目指す。これにともない、人事評価制度の見直し、経営インフラの高度化や業務改革を推進し、企業価値の増大をはかる。

4. 経営目標

1) 5年後の経営目標（最終年度となる平成20年3月期の姿）

- ・ 連結売上高 500億円
- ・ 連結売上高経常利益率 7.0%

2) 中期経営目標

i) 連結

金額：百万円

	平成15年3月期 ^(注)		平成16年3月期		平成20年3月期	
	金額	前年比%	金額	前年比%	金額	5ヵ年伸率%
売上高	43,000	+3.5	43,600	+1.4	50,000	+16.3
経常利益	2,420	6.8	2,600	+7.4	3,500	+44.6
当期純利益	690	+19.4	1,330	+92.8	1,900	+175.4
売上高経常利益率	5.6%		6.0%		7.0%	

ii) 単独

金額：百万円

	平成15年3月期 ^(注)		平成16年3月期		平成20年3月期	
	金額	前年比%	金額	前年比%	金額	5ヵ年伸率%
売上高	39,900	+3.5	40,500	+1.5	45,000	+12.8
経常利益	1,860	8.6	2,050	+10.2	2,700	+45.2
当期純利益	500	+22.5	1,160	+132.0	1,550	+210.0
売上高経常利益率	4.7%		5.1%		6.0%	

(注)平成15年3月5日に公表した「業績予想の修正に関するお知らせ」に基づく

5. 事業計画

既存事業部門については、当社のコア事業における積極的な収益体質の向上をはかり、経営基盤の強化を推進する。新規事業部門においては、次世代に向けた継続的な発展を目的とした新規事業の創生を目指す。

< 既存事業 >

当社の収益の柱である既存事業は、営業部門と研究部門を統合した製紙薬品事業部ならびに化成品事業部に再編し、明確な責任と権限のもとに安定的な収益体質の向上をはかり、経営基盤の強化を推進する。

- 1) 徹底したコスト競争力強化のための施策
- 2) 製品ごとのライフサイクルに応じた見直し
- 3) 主力製品の新規用途開発による高付加価値化
- 4) 海外における拡大と新市場の確保

< 新規事業 >

大阪、筑波研究所において幅広い分野を対象に進めてきた新規事業の探索段階から本格的事業の立ち上げに向け、新規事業の営業部門と研究部門を電子機材事業部、ファインケミカル事業部ならびに新事業企画開発部に再編し、明確な責任と権限のもとに次世代に向けた新たな事業の確立を目指す。

- 1) 精密部品洗浄分野とこれに関わる分野における事業の拡大
- 2) 機能性ファインケミカル分野における事業の拡大
- 3) 新素材の市場拡大と次期新規事業の探索

セグメント別売上高対比表（連結）

金額：百万円

	平成15年3月期		平成16年3月期		平成20年3月期	
	金額	前年比%	金額	前年比%	金額	5ヵ年伸率%
製紙用薬品事業	16,880	+2.8	17,100	+1.3	19,400	+14.9
工業用樹脂事業	25,270	+4.8	25,600	+1.3	29,400	+16.3
その他	850	18.8	900	+5.9	1,200	+41.2
合計	43,000	+3.5	43,600	+1.4	50,000	+16.3

6. 管理体制の再構築

組織体制を再構築し、事業部門別業績評価制度の確立を目指す。この目的に沿った人事評価と報酬制度を見直し、業務の効率化と社員の意識改革を推進する。

- 1) 事業部門別業績評価制度の再構築
- 2) 人事評価・報酬制度の見直し
- 3) 全社的業務改革の推進

7. 株主還元策

当社は安定的な配当を維持しつつ、積極的な株主還元策に取り組みます。

この方針に基づき、平成15年2月20日開催の臨時取締役会において、平成15年3月期に予定しておりました期末配当15円に東京証券取引所および大阪証券取引所市場第一部指定記念配当3円を加え、18円とする案を平成15年6月下旬に開催予定の第73期定時株主総会に付議することを決議いたしました。

以上

見通しに関する注意事項

当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。